

これまでの香川の教育実践とICTのベストミックスを

令和2年度末に、県内全ての小・中学校に1人1台端末が整備され、この2年間でデジタル教科書やデジタル教材、学習支援ソフト等、教育現場のICT活用が急激に進められてきました。

その中で、ICTを活用して学びを深めていく上でのメリットとデメリットが見えてきています。例えば……。

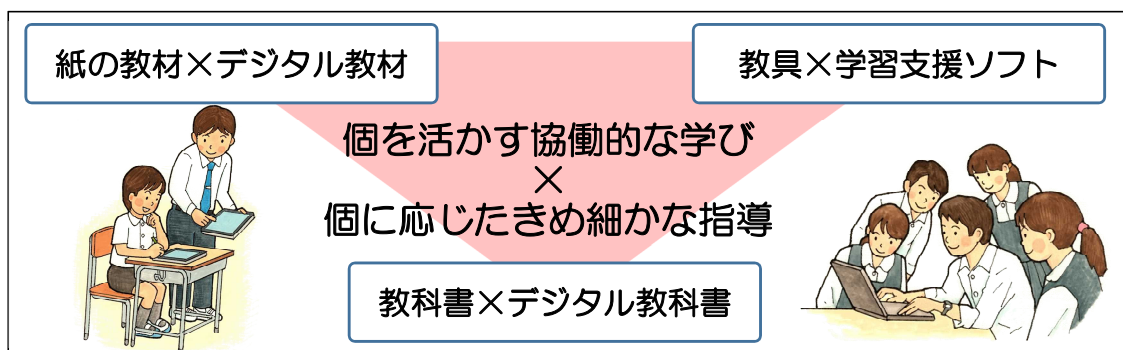
【メリット】

- ・ いろいろな情報を集めやすい
- ・ 図や写真を拡大できて、見やすい
- ・ 書き込んだり、消したりするのが容易で試行錯誤できる など

【デメリット】

- ・ 紙に比べて記憶に定着しにくい
- ・ 分析的に読む必要がある場合は紙の方が読む力を発揮しやすい
- ・ 不確かな情報が含まれることがある など

今後は、「紙かデジタルか」の二者択一の考えに陥ることなく、両者をうまく活用して子どもたちの学びを深める、これまでの香川の教育実践とICT活用のベストミックスを目指しましょう。



■ 本県の現状

1人1台端末の授業における活用頻度(図1)や家庭での利用状況等において、本県は、全国平均を下回っている状況です。また、活用が進んでいる学校とそうでない学校、活用に積極的な教員とそうでない教員との差も見られます。

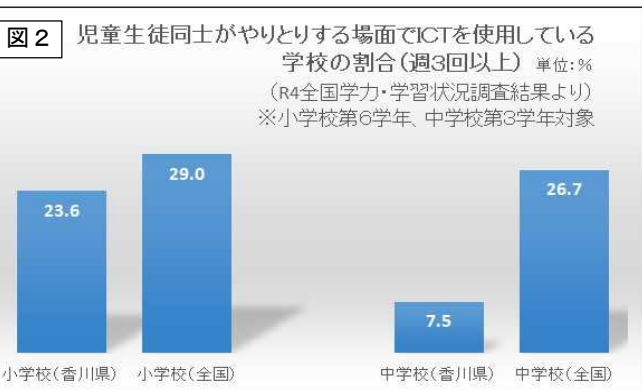
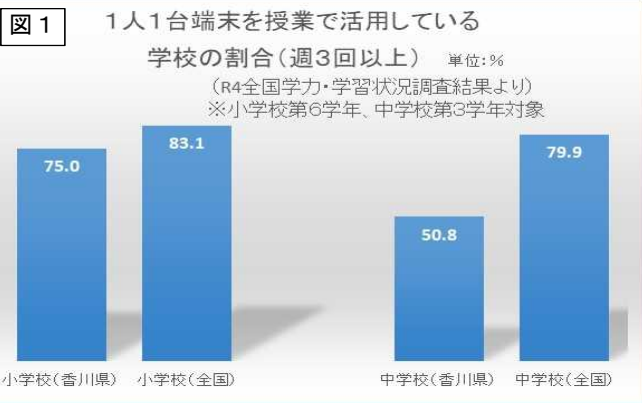
■ これまで培ってきた授業力に加えて

丁寧できめ細かな指導、熱心な授業研究や研修など、香川の教員の授業力の高さには定評があります。もしかすると「端末を使わなくても十分に授業ができる」という意識が、ICTの活用を遠ざけているのかもしれない。

しかし、ICTには、新しい学びを拓く可能性があります。これまで培ってきた授業力に、ICTという道具が加わった時、学習意欲の高まりや、より効果的な学びのスタイルが見えてくるかもしれません。

■ 「個を活かす協働的な学び」へ

ICTの可能性の一つに、「協働的な学び」の充実があります。本県における、児童生徒同士がやり取りをする場面でのICTの使用状況は図2の通りですが、ICTの活用が、空間的・時間的制約を緩和し、自分の考えを表現したり交流を円滑にしたりなど、協働的な学びを発展させる可能性があります。



ベストミックス

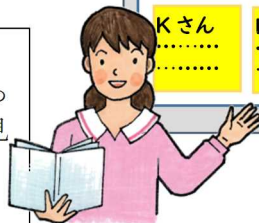
香川の教育実践とICT活用を組み合わせ、子どもたちの深い学びをどのように導いていくかが大切です。以下の例を参考に、先生方においても、どのように香川の教育実践とICT活用を組み合わせれば効果的なのか、その可能性を探ってみてください。

個を活かす協働的な学び

ICTを活用することで、個々の児童生徒の考えを即時共有できるようになります。しかし共有することだけを目的とするのではなく、それぞれの考えのよさを見極めて授業を展開していくことは、教師の大切な役割です。

その際、次のような観点から、子どもたちの考えを見てみましょう。

- ・全体としてどのような意見が多いか
 - ・少数であっても、友達のをゆさぶったり、新たな視点を提供したりする意見はないか
 - ・相反する意見はないか
- など



また、一見、その真意を捉えにくい考えが出されることがありますが、その考えを発表した子どもに考えの背景を問うことで、新しい価値が見えてくることがあります。一人一人の考えをおろそかにしないことも、「個を活かす」教師の大切な心構えです。子どもたちの考えが一覧に表示されたら、「もっと聞いてみたいな、と思う友達の考えはありませんか？」と子どもたちに投げかけてみるとよいでしょう。

個に応じたきめ細かな指導

「どの子どもが、どのような考えをもっているか」の把握がしやすいところにICTの大きなメリットがありますが、忘れてはならないのは、ICTを使えばどの子も自分の考えが書けるようになるということではないということです。紙媒体であろうと電子媒体であろうと、書くことに困っている子どもは存在します。

子どもたちの考えを一覧表示した時、ICTは「どの子どもが自分の考えを書けていないか」を教えてくださいますが、そこに手を打てるのは教師です。その子どもの実態に応じて、どう支援していくのが適切なのか考え、支援することが、子どもたちの前に立つ教師の大切な役割です。

例えば、端末上で友達の考えを閲覧しながら、自分の考えを形成する手掛かりにすることができますが、子どもによっては、端末上に示された友達の意見を読むだけでは理解しにくいこともあります。そこで、教師の声掛けが必要になります。



Aさんのこの意見は、〇〇ということが言いたいんだね。でも、Bさんは、Aさんとはちがって、□□という立場で意見を言っているよ。あなたの考えは、AさんとBさんのどちらに近いかな。

コラム —教育の「不易」—

数十年前にワープロが登場した時、文章を書きやすくなったけれども、ワープロだからよい文章が書けるようになったというわけではありませんでした。さらにさかのぼれば、電卓が登場した時、確かに計算が楽になったけれども、そこに指令を出す（立式をする）のは人間の役割です。道具を与えたから大丈夫、ではなく、根本を支える人間の力をどのように育てていくか、そこを見極めていくことに、教育の「不易」があります。